あおぞら

Denenchofu Chuo Hospital

Vol. 84
2023.4月号
田園調布中央病院広報誌

TOPICS:新築移転計画のお知らせ・訪問リハビリについて

Toda Medicalcare Group
戸田中央メディカルケアグループ
TMG

Information 2023

戸田中央メディカルケアグループ創立60周年記念事業

田園調布中央病院新築移転 ～２０２４年度（令和6年度）開院に向けて～

戸田中央メディカルケアグループ創立60周年記念事業として、当院は新築移転計画を進めております。
2023年初夏に着工し、2024年秋頃の竣工を予定しております。新病院予定地は多摩川駅近くの中原街道沿いに立地し東急東横線、目黒線、多摩川線にアクセスし、丸子橋を挟んで武蔵小杉にも近く交通の要衝にあります。豪華客船を彷彿とさせる外観の鉄筋コンクリート造5階建てで、病床は現在の91床から100床に増床されます。現病院は、新病院と連携を図りつつ、クリニックとして診療を継続する予定です。急性期病棟に加え、回復期リハビリテーション病棟が新設され患者さまの日常生活への早期復帰を目指した、リハビリテーションプログラムの充実も図っていく予定です。

多摩川や富士山の景色が一望できる療養環境

当院では、急性期から回復期の入院診療、ならびに外来診療や在宅での訪問リハビリテーションまでを一貫して行えるトータルヘルスケアを目指してまいります。新に整備される回復期リハビリテーション病棟では、川側の病室から多摩川や富士山の景色が一望できるなど、充実した療養環境となる予定です。これからも地域医療に貢献できるよう取り組んでまいります。

田園調布中央病院では
訪問リハビリテーションを行っています！

日本は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行しています。65歳以上の人口は、現在3,500万人を超えており2042年で約3,900万人でピークを迎えますが、その後も、75歳以上の人口割合は増加し続けることが予想されています。このような状況の中、団塊の世代が75歳以上となる2025年以降は、国民の医療や介護の需要がさらに増加することが見込まれています。

これを受けて国は、重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構想を打ち出しました。高齢者が重度の介護状態になった場合でも、なるべく在宅で医療・介護が受けられるよう地域の関連機関が連携をとり、体制を整えることで、社会保障制度や医療・介護の需給バランスを保とうとするものです。今回紹介する訪問リハビリテーションは、このシステムの一端を担っています。

出典：厚生労働省「地域包括ケアシステム」https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/

What? 訪問リハビリテーションでは何をするのでしょうか？

理学療法士、作業療法士等が利用者さまのご自宅を訪問し、身心の機能の維持・回復日常生活の自立支援を目的として、理学療法（歩行、立ち上がり等の動作）、作業療法（食事、着替え等の生活動作）等のリハビリテーションを行います。利用者さまのご自宅に伺ってリハビリテーションを行うため、生活状況やご自宅の環境に合わせて日常生活の自立を支援できるメリットがあります。

次のようなお悩みがある方は是非ご相談ください！！

- **病気やケガによる障害で自宅での生活が難しい**
- **リハビリテーションを受けたいが通院が難しい**
- **自宅での介助方法を教えてほしい**
- **転ばないように安心して自宅での生活を送りたい**
- **飲み込みがうまくいかなくて困っている**

訪問リハビリテーションでは、体調の確認・寝返り等の体位交換・起き上がりや座る訓練・立ち上がり訓練を行います。関節の拘縮（関節が動かしにくくなった状態）に対しては、マッサージを行います。また、これらの動作について日常生活での工夫、介助や介護の方法をご家族に指導いたします。在宅療養で必要な福祉用具や手すり設置等の住宅改造についてのアドバイスなど、内容は多岐にわたります。

当院では、新規訪問リハビリテーションの受付を一時休止しておりましたが、本年5月より受付を再開いたします。地域の皆さまの健康維持と日常生活の支援に、当院のリハビリテーション科がお役に立てると幸いです。

各お問合せ先のご案内

- 訪問リハビリテーションのご利用を検討されている方 ➡ ご担当のケアマネジャーへご相談ください。
- 詳しい利用方法、対応可能地域、リハビリテーションの内容、費用について ➡ 当院リハビリテーション科までお問合せください。

▶田園調布中央病院 TEL:03-3721-7121（代表）

▶田園調布中央病院ホームページ 「訪問リハビリテーション」

https://denenchofu-hp.jp/visitreha.html

田園調布中央病院
訪問リハビリテーション

訪問リハビリテーションを利用するには

要介護または要支援の認定を受けることが必要です。まだお手続きがお済みでない方は、お住まいの市区町村役所の介護保険課または地域包括支援センターの窓口で要介護認定（要支援認定を含む）の申請をしましょう。
申請後は、市区町村の職員の訪問を受け、聞き取り調査（認定調査）が行われます。また、市区町村からの依頼により、かかりつけ医師が身心の状況について主治医意見書を作成します。その後、認定調査結果や主治医意見書に基づいて、介護認定審査会による判定を経て、市区町村が要介護または要支援を決定します。

要介護（要支援）の認定を受けたら・・・訪問リハビリテーション利用開始までの流れ

STEP 1 ケアマネジャーに相談し訪問リハビリ事業所を決める

STEP 2 主治医に訪問リハビリを利用したい旨を伝え、リハビリ指示書などの必要書類作成を依頼する

STEP 3 訪問リハビリ事業所と契約

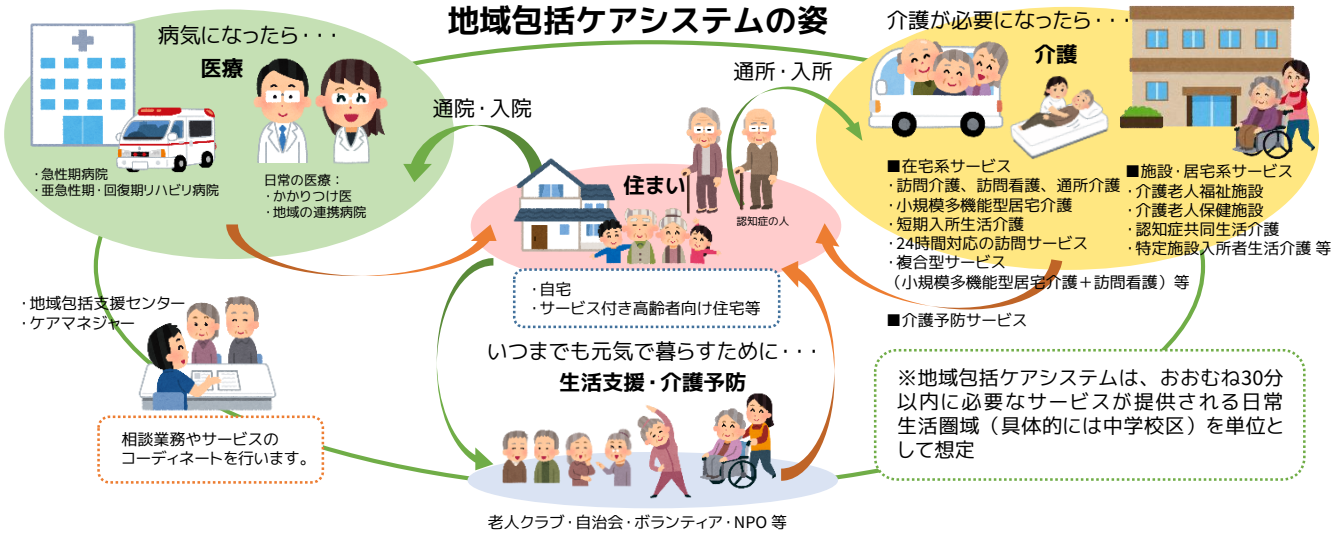
STEP 4 訪問リハビリ事業所が、主治医のリハビリ指示書等を参考にしながらリハビリ計画書を作成。ケアマネジャーはケアプランに組み入れる。

STEP 5 利用開始

地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上になる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援**が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していきます。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差**が生じています。

地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくこと**が必要です。



出典：厚生労働省「地域包括ケアシステム」https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/

院内は引き続き
マスクの着用をお願いいたします。

厚生労働省より2023年3月13日以降のマスク着用の考え方について指針が発表されました。
「令和5年3月13日以降、個人の主体的な選択を尊重し着用は個人の判断に委ねることになります。本人の意思に反してマスクの着脱を強いることがないよう、個人の主体的な判断が尊重されるよう、ご配慮をお願いいたします。」とあります。

ただし、「医療機関を受診するとき」「高齢者など重症化リスクの高い方が多く入院・生活する医療機関や高齢者施設などへ訪問するとき」はマスク着用が効果的であるとして、マスク着用を推奨しております。当院では、患者さまの安全と健康を守るため、受診される方、入院される方、付き添いの方へ引き続きマスク着用をお願いさせていただきます。

当院のスタッフもマスクの着用を徹底しております。恐れ入りますが、マスクをお持ちでない方は、マスクをご購入いただき、マスクを着用のうえご入館ください。皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

田園調布中央病院 病院長

「マスク着用について」厚生労働省リンク先：
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kansentaisaku_00001.html

出典：首相官邸ホームページ「新型コロナウイルスへの備え ■手洗い」https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html

あおぞら 田園調布中央病院 広報誌 あおぞら 〈2023年4月号〉 発行 Toda Medicalcare Group 戸田中央メディカルケアグループ 医療法人社団七仁会 田園調布中央病院広報委員会 〒145-0071 東京都大田区田園調布2-43-1 http://denenchofu-hp.jp/ TEL.03-3721-7121（代表）